

[果樹部門]

## 7. イチジク株枯病に対するオンリーワンフロアブルの適用

[要約]

オンリーワンフロアブル2,000倍液は、イチジク株枯病に対して防除効果が高い。本剤とトップジンM水和剤500倍液の体系防除は、株枯病の多発条件下においても防除効果が高い。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室、環境研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 技術

---

[背景・ねらい]

県南のイチジク産地において株枯病が発生しており、園地全体の樹に感染して枯死に至る難防除病害であることから、大きな生産阻害要因となっている。本病に対する登録農薬は非常に少ない。そこで、防除効果が高く、使用場面の適用が広いオンリーワンフロアブルの登録促進を図り、防除対策に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 定植から2年間の圃場試験で、オンリーワンフロアブル2,000倍液の5 L/樹及び同10 L/樹の株元灌注処理は、対照薬剤であるトリフミン水和剤500倍液の1 L/樹に比較して予防効果が高い(表1)。
2. オンリーワンフロアブルの定植1年目の処理では、新梢の節間短縮、節数の減少、葉の濃緑化、脇芽の増加などの薬害がみられるが、2年目の処理ではほとんど薬害は生じない(表1)。
3. 株枯病の多発条件において、オンリーワンフロアブル2,000倍液とトップジンM水和剤の体系的な灌注処理(表2)は、2年間にわたり株枯病に対する防除効果が高い(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本剤は2013年2月27日にイチジク株枯病に適用拡大されている[収穫前日まで(3回以内)、5~10 L/樹を灌注]。
2. 本剤は、罹病樹に対する治療効果は低いので、発病前から予防的に灌注処理する。
3. 本剤は、定植初年目の幼木や鉢植え樹など根域が狭い樹では薬害を生じやすい。

[具体的データ]

表1 イチジク株枯病に対するオンリーワンフロアブルの効果<sup>z</sup> (2008~2009年)

供試薬剤	希釈倍数・処理方法 <sup>y</sup>	供試 <sup>x</sup> 樹数	発病 <sup>w</sup> 樹数	生育調査 (2008/8/4)		薬害 (1年目/2年目)
				新梢長(cm) <sup>v</sup>	節数 <sup>v</sup>	
オンリーワンフロアブル	2,000倍 5L/樹 株元灌注	7	0	135.1±7.7	30.1±0.9	+/-
	2,000倍 10L/樹 株元灌注	7	0	85.4±5.0	25.4±1.2	+/-
トリフミン水和剤 (対照薬剤)	500倍 1L/樹 株元灌注	6	3	181.4±9.1	32.0±1.0	-/-
無処理		5	4	180.7±4.6	32.0±0.5	

<sup>z</sup> 供試品種；蓬萊柿。定植 2008年4月4日。条間 1.5m、株間 1.5m。直立 1本仕立て

<sup>y</sup> 処理月日；2008年5月15日、6月23日、7月25日、9月11日。2009年7月13日、8月25日、10月2日  
病原菌の接種灌注日；2008年5月16日、7月10日、7月29日、9月12日、2009年7月31日

<sup>x</sup> 試験区は1樹/区とし、各薬剤区で7樹を供試したが、2009年春期の凍害で一部の樹が枯死したため、供試樹数が減少した

<sup>w</sup> 主幹内部に株枯病による褐変が認められた樹数

<sup>v</sup> 平均値±標準誤差を示す

表2 薬剤の体系的な灌注処理日<sup>z</sup>

処理月日	薬剤名 <sup>y</sup>
2010.5.6	オンリーワンフロアブル2,000倍
6.17	トップジンM水和剤500倍
8.3	オンリーワンフロアブル2,000倍
8.30	トップジンM水和剤500倍
10.1	オンリーワンフロアブル2,000倍
10.27	トップジンM水和剤500倍
2011.5.2	オンリーワンフロアブル2,000倍
6.17	トップジンM水和剤500倍
7.20	オンリーワンフロアブル2,000倍
8.24	トップジンM水和剤500倍
10.7	オンリーワンフロアブル2,000倍
10.31	トップジンM水和剤500倍

<sup>z</sup> 供試品種：蓬萊柿（露地栽培）、2か年とも株養成のみで収穫なし

<sup>y</sup> 両薬剤とも1L/株を株元土壌表面に灌注

表3 オンリーワンフロアブルを用いた体系的な薬剤灌注処理の株枯病に対する防除効果<sup>z</sup> (2010~2011年)

処理区名	供試樹数	発病樹数		薬害
		主幹地際外部に病斑を生じた樹数	主幹地際内部の病徴(褐変)のみの樹数	
体系処理区 <sup>y</sup>	9	0	1	-
無処理区	6	2	3	-

<sup>z</sup> 農研内株枯病汚染露地圃場（さらに2010年5~8月に3回、2011年5~7月に2回病原菌を接種灌注）、定植 2010年3月18日、条間 1.5m、株間 1.5m、直立 1本仕立て。発病調査 2012年1月6日

<sup>y</sup> 表2に示す薬剤の体系的な灌注処理

[その他]

研究課題名：イチジク株枯病の生態解明と総合防除技術の開発、マイナー作物等病害虫防除対策事業

予算区分：交付金（病害虫防除農業環境リスク低減技術確立）、県単（現地緊急対策）

研究期間：2008~2011年度

研究担当者：井上幸次、田村尚之、鷺尾建紀

関連情報等：平成22年度試験研究主要成果、33-34